



帰国生の学校選び A to Z

●第34回●

帰国生公立高校入試の現状

公立高校では、調査書(中学校の成績など)と学力検査(国語、数学、理科、社会、英語)を総合的に評価して入学者が選抜されます。ただし、帰国生への対応は都道府県によってさまざまです。

まず、大多数の都道府県が帰国生に対して特別な配慮をするのに対し、新潟、香川、徳島、愛媛ではそれを明示していません。また、18の都道府県(北海道、福島、茨城、千葉、東京、神奈川、富山、石川、静岡、愛知、三重、京都、大阪、兵庫、奈良、岡山、福岡、大分)では帰国生受け入れ高校を特定校に定めているので、それら以外の高校では特別な配慮はないといえます。その他の25県ではすべての高校において特別な配慮がされることになっています。ただし、入試での負担軽減がほとんどで、入学後のサポートはあまり期待できません。全国で帰国生が10人以上いる公立高校は30校ほどですし、ほとんどの高校では帰国生がいないとか在籍したことがないというのが実態だからです。一方、帰国生在籍数の多い高校では、ある程度のサポートは期待できそうです。ちなみに帰国生在籍数が20人以上の公立高校は次のとおりです。東京:国際、三田、竹早、神奈川:横浜国際、神奈川総合、鶴嶺、新城、横浜市:東、静岡:浜松北、愛知:千種、豊田西、刈谷北、大阪:住吉、千里、神戸市:葺合

次に、入試科目に目を向けると5科目が22道県、3科目が18都府県、2科目が2府県で、それ以外が5県です。3科目の都府県の多くでは国語、数学、英語が課されますが、長野は数学、理科、英語の3科目ですし、山梨と熊本では5科目のうち3科目を選択できます。学力検査を課さない5県の内、兵庫は適性検査と小論文、岡山は調査書と面接、福島、長崎、鹿児島は作文のみです。なお、栃木、群馬、神奈川、長野、岐阜、三重、大阪、奈良、広島、福岡、熊本では学力検査の他に作文または小論文が課されます。また、札幌市立の4校は英語のみ、都立国際は英語の作文のみで受験できます。

このように公立高校の帰国生入試は都道府県によって異なります。各々の教育委員会にて情報を収集し、対策をすることをお勧めします。



執筆者: 丹羽 筆人 (文京学院大学女子中学校 高等学校 北米事務所 アドバイザー / 名古屋国際中学校・高等学校 アドミッションオフィサー 北米地域担当)

河合塾での指導経験を経て米国では CA・NY・NJ 州の補習校・学習塾にて指導。現在はデトロイトりんご補習授業校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験学習「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所 アドバイザー。お問い合わせ先: E-mail bunkyo@ujec.org Phone & Fax 855-926-1140 (文京学院) E-mail nihs@ujec.org Phone & Fax 855-669-9300 (名古屋国際)